

日本学術会議

若手アカデミー 運営分科会（第26期・第2回）

議事要旨

日 時 令和6年3月22日（金）10:00～12:00
会 場 日本学術会議5-B会議室及びオンライン会議システム併用

出席者 小野悠、標葉隆馬、南澤孝太、岩崎渉、小川剛伸、川口慎介、木村草太、
武田秀太郎、藤岡沙都子

議 事

（1）若手アカデミーの活動について

25期の活動概況の説明があり、26期の活動方針および1年目の活動予定などについて説明がなされた。

（2）持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2024

会議の概要および国際分科会が中心になって企画を進めていくことについて説明がなされた。

（3）分科会の活動について

各分科会での議論内容が共有された。主な内容は以下の通りである。

○学術の未来を担う人材育成分科会

若手アカデミーの多分野の特性を活かし、分野ごとの課題を明確化しながら業界マップの作成や次世代へのアプローチを検討する意義が議論された。

○ワーク・ライフ・バランス分科会

託児の設置方法や必要な環境の共有をはじめとする取り組みが議論された。

○若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会

相互ラボ訪問やランチタイム研究会の計画が議論された。

○未来を拓く学術イノベーション分科会

産官学を巻き込んだシンポジウムの開催を通じて意識改革を目指すとともに、スタートアップに関する議論や情報共有がなされた。

○地域社会とアカデミアの連携に関する分科会

地域連携の強化と情報共有を目的に、地域の学校からのニーズ収集やメンバーの活動希望リストの作成について議論が行われた。

○情報発信分科会

Web サイトの構築や広報活動の強化に加え、さまざまなサイエンス企画との連携について議論された。

○国際分科会

2024 年度の活動内容を確認し、2025 年に向けた企画提案の推進や GYA 新規メンバー募集に関する取り組みが議論された。

(4) その他

次回全体会議の実施について、福岡や大阪での開催案が検討された。また、アウトプットの具体化や若い世代への発信を強化する方針が共有された。